

明治初期の神奈川県における天然痘死亡率

Smallpox mortality in Kanagawa Prefecture, 1850-1875

川口 洋(帝塚山大学)

Hiroshi KAWAGUCHI (Tezukayama University)

kawag@tezukayama-u.ac.jp

筆者は、足柄県下の各村が明治8(1875)年春に作成した「種痘人取調書上帳」を史料として、種痘の普及過程と天然痘死亡率を復原する「種痘人取調書上帳」分析システムを開発中である^{1) 2)}。本システムを用いて、明治8年5月末の足柄県東部11カ村における年少人口の種痘未接者が1割未満に減少した点を指摘した^{3) 4)}。本稿では、足柄上郡三廻部村、萱沼村、関本村、足柄下郡永塚村、淘綾郡中里村、大住郡落幡村の「種痘人取調書上帳」に記録されている天然痘生残者と「戸籍」や「人員総計」から判明する現住人口をもとに、1850-1875年の6カ村における天然痘死亡率を推計し、神奈川県統計書から得られる1884-1899年の郡別天然痘死亡率と比較する。

文部省医務局は、明治7年6月24日の文部省布達第貳拾號にもとづいて、馬喰町四丁目に牛痘種繼所を設置して再帰牛痘苗の生産を始め、翌年12月までに各府縣と病院学校に3,905管を配分した。ついで、明治7年10月30日に種痘規則(文部省布達第貳拾七號)を布達して、府縣の認定する種痘医以外の種痘接種を禁じ、善感・不善感を検診して、毎年2度ずつ府縣から文部省に種痘接種者数を報告するよう求めた。

種痘規則を受けた足柄県令・柏木忠俊は、明治8年1月に天然痘豫防心得(足柄県布達第壹号)を布達して種痘接種を勧め、接種状況を調査して、報告するよう村に命じた。そのため、明治8年春に足柄県下各村で「種痘人取調書上帳」が作成された。同史料は、村に居住する25歳未満の年齢階層を悉皆調査して、世帯ごとに戸主名、屋敷番号、名前、戸主との続柄、年齢、生年月日、初種接種年月、初種を接種した医師名とその居住地、再種接種年月、再種を接種した医師名とその居住地、三種接種年月、三種を接種した医師名とその居住地、天然痘発症年月などが記録されている。

「種痘人取調書上帳」は、明治8年1月から6月までの各府県における種痘医数、初種接種者数、再種三種接種者数、および総人口に占める種痘接種者の割合を記載した内務省衛生局雑誌、第二号、pp.1-4(1876)所収の「明治八年自一月至六月 種痘一覽表」の基礎調査資料であった可能性がある。この種痘一覽表は、全国共時的に府県別の種痘接種者数を遡及できる上限の資料とみられる。

参考文献

- 1) 川口 洋:「種痘人取調書上帳」分析プログラムの開発, 情報処理学会シンポジウムシリーズ, Vol. 2014, No. 3, pp.81-86 (2014).
- 2) 川口 洋・加藤常員: 歴史 GIS を用いた足柄県における牛痘種痘法の普及過程の検証, 情報処理学会シンポジウムシリーズ, Vol. 2015, No. 2, pp.85-90 (2015).
- 3) Kawaguchi, Hiroshi, Faith healing and vaccination against smallpox in nineteenth century Japan in Ts'ui-jung Liu (ed.), *Environmental History in East Asia: Interdisciplinary Perspectives*, pp.273-295, Routledge (2014).
- 4) 川口 洋: 統計資料から読み解く環境史 -人口増加開始期の衛生・医療環境-, SEEDer, No.12, pp.40-47 (2015).